

2012 年度春季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日
2012 年 5 月 26 日 (土) ～29 日 (火)
午後：総会, 受賞記念講演, 懇親会
第 4 日 (5 月 29 日)
午前：口頭
午後：口頭, 専門分科会
2. 会 場
つくば国際会議場
〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-3
<http://www.epochal.or.jp/>
3. 研究発表
口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。
4. 大会日程
大会は以下の日程で行われる予定です。
第 1 日 (5 月 26 日)
午前：口頭, ポスター
午後：専門分科会, 公開気象講演会
第 2 日 (5 月 27 日)
午前：口頭, ポスター
午後：シンポジウム
第 3 日 (5 月 28 日)
午前：口頭, ポスター
5. シンポジウム
大会第 2 日 (5 月 27 日) の午後に開催予定です。テーマは「放射性物質等の移流拡散問題－モニタリング, 予測, 防災情報－ (仮題)」です。
6. 懇親会
大会第 3 日 (5 月 28 日) の夕刻に, 大会会場にて開催予定です。
7. 大会ウェブサイト【2012 年 1 月 11 日 (水) 開設予定】
本大会では, 大会ウェブサイト, を, 2012 年 1 月 11 日 (水) より開設する予定です。講演申込み受付や大会プログラムなどの詳細につきましては, こちらをご参照下さい。URL 等につきましては, 気象学会ホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/msj/>) をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法
「天気」本号掲載の「日本気象学会 大会発表規定」に従って講演の申し込みを行って下さい。
原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。 オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や, クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など, 止むを得ない事情がある場合は, 郵送による申込を受け付けます。
なお, 大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意ください。
- 1.1 オンラインによる申込
・締切：2012 年 2 月 14 日 (火) 15 時 (日本時間)
・大会ウェブサイト参照し, 指示に従って申し込みをして下さい。
・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パスワードの登録を行います (前回の ID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが, 改めて個人情報と ID・パスワードの登録を行って下さい)。この ID とパスワードによって登録システムにログインし, 大会参加登録・講演申込・大会予稿送付・大会参加費決済などを行います。

- ・個人情報とIDの登録は講演者本人が行ってください。登録された個人情報と異なる氏名・所属での講演申込はできません。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込(クレジットカード決済)を行ってください。大会参加登録と大会参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、口頭発表の発表日時希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご承知おき下さい。
- ・講演申込み締め切り(2月14日(火)15時)までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・締め切り後の講演申込や大会予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2012年2月7日(火)必着
(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。)
- ・以下の3点を講演企画委員会事務局(下記)までお送り下さい。
 - ① 大会予稿原稿
 - ② 講演者氏名(漢字とローマ字)、会員番号、講演種別、連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)、講演題目、主・副キーワードと、使用機器を書いたもの(様式は自由です。)
 - ③ 郵便振替払込受領証(次項参照)
 送付先：
〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1
気象研究所予報研究部内

気象学会講演企画委員会事務局

(封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。)

- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。
 - －口座番号は「00130-3-5958」、
 - 加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
 - ①「2012年度春季大会参加申込」と明記
 - ②会員番号(非会員の場合は「非会員」と明記)
 - ③大会参加種別(講演者Aまたは講演者B)
 - ④大会参加費金額
 - ⑤懇親会費金額
 - ⑥合計金額
 - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - －払込料金は本人負担をお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルはできません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却いたしませんのでご注意ください。
- ・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会(kouenkikaku2012s@metsoc.jp)までご相談下さい。

2. 講演をしない(聴講のみ)場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン(大会ウェブサイト)による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンラインによる申込

2012年4月10日(火)までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込んで下さい(クレジットカード決済のみ)。

2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2012年4月3日(火)までに、郵便振替で参加費を払い込んで下さい。
 - －口座番号は「00130-3-5958」、
 - 加入者名は「日本気象学会」です。

－「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

- ①「2012年度春季大会参加申込」と明記
- ②大会参加種別（聴講者）
- ③大会参加費金額
- ④懇親会費金額
- ⑤合計金額

－「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。

－払込料金は本人負担でお願いします。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払って下さい（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください）。

3. 参加費，懇親会費

3.1 大会参加費

・大会参加費（消費税込）は以下の表の通りです。

| 大会参加費 | | |
|-------|---------|---------|
| 種別 | 前納 | 当日 |
| 講演者 A | 8,000 円 | － |
| 講演者 B | 5,000 円 | － |
| 聴講者 | 3,000 円 | 4,000 円 |

・講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

・講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりませ

ん（講演件数による加算はありません）。

3.2 懇親会費

・懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。世代を問わず多くの方々に参加していただき交流を深めたいと思います。

| 懇親会費 | | |
|------|---------|---------|
| 種別 | 前納 | 当日 |
| 一般 | 4,000 円 | 5,000 円 |
| 学生 | 1,000 円 | 1,000 円 |

・懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することが出来ます。また当日会場で支払うことも可能ですが、当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

3.3 その他

・一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。

・大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。

・領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。

・参加当日は、参加登録・決裁完了メールのプリントアウト等を持参いただくと、よりスムーズに受付を行うことが可能です。

Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。

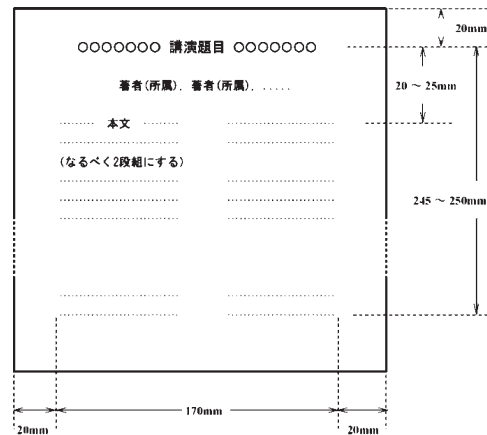
4. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部

には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に＊をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文はなるべく 2 段組（左半分→右半分）にして下さい。

5. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（社）日本気象学会に帰属します。



図：A4 判用紙による大会予稿原稿の作成要領

IV. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表（専門分科会を含む）とポスター発表の 2 種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。

ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭／ポスター）につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. 専門分科会の概要

- ・専門分科会は、大会第 1 日（5 月 26 日（土））及び大会第 4 日（5 月 29 日（火））の午後に開催予定です。
- ・専門分科会の各講演の講演時間はコンピーナーが決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・専門分科会への講演申込み締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は 2 月 14 日（火）、郵送申込は 2 月 7 日（火））です。
- ・専門分科会に申し込まれた発表については、コンピーナーが大会予稿原稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。
- ・専門分科会に申し込まれた発表が、コンピーナーによって専門分科会に適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各専門分科会の詳細につきましては、「V. 専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は 1 時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは縦 210 cm×横 90 cm です。なお、ポスターは大きな紙 1 枚に書く必要はなく、小さ

い紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表（専門分科会を含む）につきましては、PC プロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。
- ・PC プロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。
 - ーパソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
 - ーセッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
 - ー突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応

をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。

- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

8. その他

- ・大会プログラムは「天気」4月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

V. 専門分科会のテーマと趣旨

2012 年度春季大会では下記の通り、7 件の専門分科会が開かれます。

1. 「岸保勘三郎先生の業績を偲ぶ：日本の数値天気予報の発展を振り返り、将来を展望する」

趣旨： 東京大学名誉教授の岸保勘三郎先生が 2011 年 9 月 19 日に 87 歳で逝去されました。岸保先生は 1952 年に米国のプリンストン高等研究所に招聘され、von Neumann, Jule Charney と世界初の数値天気予報の開発に従事されました。日本に帰国された後は、気象庁にて数値天気予報の導入、発展に大きく尽力されました。また、先生は 1970 年に東京大学に移られた後は理学部教授として教育に貢献されると共に、日本気象学会理事長として日本の気象学会を牽引されました。国際的には、Joint Organizing Committee (JOC) のメンバーとして Global Atmospheric Research Programme (GARP) を推進され、衛星観測による数値天気予報の精度向上に貢献されました。この分科会では、先生が関わられた数値天気予報の分野を中心とした発表を行い、先生の業績を偲びます。

コンビーナー： 時岡達志（海洋研究開発機構）、露木義（気象研究所）、楠 昌司（気象研究所）、佐藤薫（東京大学）

2. 「2011 年の台風 ー台風研究・技術の現状と課題ー」

趣旨： 2011 年は、9 月末までに既に 3 個の台風が日本本土に上陸し、各地に災害をもたらしたことから、台風が着目される年となった。中でも大雨を伴った台風 12 号による死者・行方不明は 93 人にのぼり、平成最悪の台風災害といわれている。また台風 15 号は日本の南で急発達後、日本列島に沿って北上し、広い範囲で災害をもたらした。2011 年の台風の特徴として、事例によって様相が大きく異なっていたことが挙げられる。2004 年に 10 個の台風の日本本土上陸があって以降、台風に関する研究から多くの知見が得られた。しかし、それらの知見をもっても今回の台風を説明することができない。そこには、気象・気候学的研究及び現業解析・予報技術において未解明な課題が残されている。今回、これまでの台風に関する研究や

2011年の台風を通して明らかになった課題についてさまざまな角度から議論を行い、今後の台風研究の方向性を示すことを目的とする。

コンピーナー: 北畠尚子 (気象研究所), 和田章義 (気象研究所), 國次雅司 (気象庁太平洋台風センター)

3. 「波と平均流との相互作用」

趣旨: 波と平均流との相互作用の研究は, Eliassen and Palm (1961) や Charney and Drazin (1961) 等の業績を嚆矢とし, 80年代にかけ理論的に大きな進展が見られた分野である。またその研究成果は理論的に興味深いというだけでなく Eliassen-Palm (EP) flux に代表されるように実際の解析にも有効であり, 実際 EP flux は現在でも標準的な解析ツールの一つとなっている。その後, この研究は一時やや下火となったものの, 21世紀に入り, 日本を中心に再び盛り上がりを見せているように感じられる。新たなフラックスの提案や, 相互作用のラグランジュ的記述に関する研究等, 興味深い研究が現在も進展中である。そこで, (なぜか) 再ブームとなった「波と平均流」の最先端の研究について議論すべく, 本専門分科会の開催を企画した。数値モデル研究真っ盛りであるが, その基盤として力学理論がある事は論を待たない。この専門分科会が, 地球流体力学の基礎理論の更なる発展, 延いては大気海洋科学への応用に繋がれば幸いである。

コンピーナー: 高谷康太郎 (海洋研究開発機構), 榎本 剛 (京都大学防災研究所), 林 祥介 (神戸大学), 宮原 三郎 (九州大学)

4. 「東アジアモンスーンと黒潮(II) —中緯度大気海洋相互作用に着目した新たな研究のパラダイム」

趣旨: 日本の周辺海域では, 黒潮が熱帯から運んできた大量の熱が, 顕熱や潜熱の形で狭い領域に集中して大気に受け渡されている。この海域は, 同じく西岸強化流の影響を受ける北米東岸とならび, 海洋から大気への熱の受け渡しを担う気候系の Hot spot ともいえる重要な領域であり, この海域に注目して, 中緯度域の大気海洋相互作用を明らかにするため活発な研究活動が始まっている。日本の気候を特徴づける冬の降雪, 梅雨, ヤマセ, 爆弾低気圧などの活発な低気圧活動, 台風なども,

中緯度大気海洋相互作用の視点から見直すことで, 季節予報の精度向上へも貢献しうる新たな研究のパラダイムが期待できる。本分科会では, 日本周辺海域の大気海洋相互作用やそれに関わる大気や海洋の現象について, 理解を深め, 研究のレベルを向上させることを目標として, 観測, データ解析, 数値シミュレーションなど, 研究手法は問わず, 大気, 海洋分野の参加者を得て, 活発な議論を行いたい。良くまとまった研究の紹介やレビューも歓迎するが, 観測などの研究成果の速報, 新たな研究課題の創出に繋がるアイデアなども積極的に発表して頂き, 議論を深めたい。大学院生などの若手による発表, 討論への参加を大いに歓迎する。

コンピーナー: 児玉安正 (弘前大学), 富田智彦 (熊本大学), 中村知裕 (北海道大学), 立花義裕 (三重大学), 高谷康太郎 (海洋研究開発機構), 中村尚 (東京大学)

5. 「中層大気研究の新展開」

趣旨: 現在, 中層大気分野においては, 対流圏・成層圏にとどまらず中間圏や下部熱圏を含む上下結合や, 中層大気を介した南北半球間結合などにおいて, 大きな研究進展がみられている。ここ数年, 中層大気科学分野では, 春の学会の時期には, 力学にとどまらず, 大気化学や超高層大気物理学分野との連携を考慮し, 日本地球惑星科学連合の連合大会において毎年セッションを開催してきた。本分科会では, 中層大気分野の最新の研究発表を広く募り, 気象学会において, 地球大気における中層大気的位置づけを改めて議論する場としたい。

コンピーナー: 佐藤 薫 (東京大学大学院理学系研究科), 三好勉信 (九州大学大学院理学研究院), 堀之内武 (北海道大学地球環境科学研究院)

6. 「温室効果ガス観測技術衛星 GOSAT「いぶき」の利用研究」

趣旨: 2009年1月23日に打ち上げられた温室効果ガス観測技術衛星 GOSAT「いぶき」は, 現在も順調に観測を続けている。GOSATは宇宙航空研究開発機構 (JAXA), 環境省 (MOE), 国立環境研究所 (NIES) の共同プロジェクトであり, 亜大陸規模での二酸化炭素の発生・吸収強度の推定誤差の

半減を最大の目標としている。これまでにスペクトルデータの改良と解析アルゴリズムの改訂が複数回行われ、二酸化炭素とメタンの濃度データの解析精度も向上してきている。このことを踏まえ、本セッションの前半では、これまでのセンサー性能とデータ品質の履歴、解析アルゴリズム等についてプロジェクト関係者を中心に発表を行う。後半では、配布されたデータを用いた研究発表のほか、他衛星との複合利用など、幅広い分野の研究発表を募集する。これには、CAI センサー等を用いたエアロゾルや雲に関する発表も歓迎する。本分科会を GOSAT データの有効性と発展性をより広く議論する機会としたい。

コンビーナー：今須良一（東大気海洋研）、井上元（東大気海洋研）、横田達也（国環研）、中澤高清（東北大）、中島映至（東大気海洋研）

7. 「都市域における極端気象のメカニズム解明」

趣旨：近年、大都市圏で局所的に突然発生する積乱雲がもたらす豪雨や竜巻などの極端気象が注目されている。交通や通信網が高度に発達した都市で

は、一度こうした大気現象が発生すると、道路や地下街などで降った雨が狭い箇所一気に流れ込むなどして大きな被害が発生することが多くなっている。このような都市域に発生する極端気象に対しては、気象情報を適切に発表し、防災関係者などが的確に行動できるようにする必要あるが、現時点ではまだ不十分である。これは積乱雲が発生・発達し大雨や突風をもたらすまでの詳細な物理的なメカニズムが解明されておらず、対応した監視・予測技術も開発されていないためである。そこで本分科会では、局地的大雨などをもたらす積乱雲を対象として、最新の気象観測や数値実験により、局地的大雨の発生や維持機構に焦点を当てて積乱雲の発生・発達・消滅のメカニズム解明のための議論を行なう。

コンビーナー：真木雅之（防災科研）、藤吉康志（北海道大学）、中北英一（京都大学）、小林文明（防衛大学校）、小林隆久（気象研究所）、山田芳則（気象研究所）、足立アホロ（気象研究所）

VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の規定を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員

の講演を認める（大会予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること）。

2. ただし、専門分科会に関しては各コンビーナーの判断にゆだねる。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

VII. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2012s@metso.jp）へ申し込んで下さい。

申込期限：2012年2月14日（火）

- 記入事項：
1. 会の名称とテーマ
 2. 代表者の連絡先
 3. 希望日時・開催場所
 4. 予想参加人数
 5. 希望する支援内容

VIII. 大会期間中の保育支援について

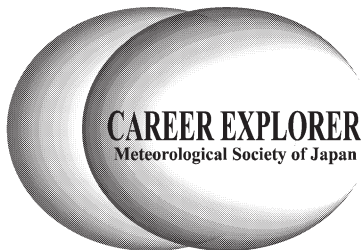
大会実行委員会では、大会期間中の保育施設の幹事サイトに掲載する予定です。詳細については大会ウェブサイトをご覧ください。

IX. キャリアエクスプローラーロゴの試験的導入について

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴを2009年度秋季大会から試験的に導入しました。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。（同様の取り組みが応用物理学会で2007年から行われています。）

2. キャリアエクスプローラーロゴ



大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。

3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演題目の左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさで挿入してください。
2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：講演題目付近の分かりやすい場所に表示してください。

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。